

令和5年度大分大学データサイエンス基礎教育プログラム
自己点検・評価結果

令和5年12月27日
大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター長
上白木 悦子

1. 自己点検・評価の実施

教育マネジメント機構基盤教育センターにおいて、令和5年度に開講した大分大学データサイエンス基礎教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）について自己点検・評価を実施した。

2. 自己点検・評価の対象

本プログラムの自己点検・評価の対象となる科目は以下のとおりである。

対象学部	教育科目の区分	授業科目
経済学部 医学部 理工学部 福祉健康科学部	教養教育科目	データサイエンス入門
教育学部	教養教育科目	教育データサイエンス入門

なお、本教育プログラムの実施にあたり、数理データサイエンス専門部会において、共通教材（スライド、動画、小テスト、まとめテスト）を作成した。

3. 自己点検・評価の結果

(1) 履修状況と修了実績

学部名	令和5年度			令和4年度		
	履修者数 (名)	修了者数 (名)	修了率 (%)	履修者数 (名)	修了者数 (名)	修了率 (%)
教育学部	155	履修中	履修中	135	135	100.0
経済学部	277	269	97.1	291	283	97.3
医学部	194	194	100.0	160	160	100.0
理工学部	359	350	97.5	379	370	97.6
福祉健康科学部	104	104	100.0	51	47	92.2

(2) 学修成果

本教育プログラムでは、学習到達目標が設定されており、各科目において小テスト、まとめテスト、課題及び試験等でその達成度を確認している。また大分大学における学修の成績評価基準等に関する規程の第2条において、評点および評価基準は、以下のように定められているため、当該科目に合格すれば、学習到達目標を達成できていると判断できる。また、教育マネジメント機構からの依頼に基づき、基盤教育センターにおいて各科目の単位取得状況や成績分布も特段問題ないことを確認した。

成績評語 (評価)	評価の基準	評点
S	望ましい基準を大きく超えている。	90点以上100点以下
A	望ましい基準を超えている。	80点以上90点未満
B	望ましい基準に達している。	70点以上80点未満
C	最低限の基準に達している。	60点以上70点未満
F+	基準を下回る。	50点以上60点未満
F	基準を大きく下回る。 受講を放棄した。	50点未満

(3) 学生による授業評価アンケート結果

本教育プログラムは、初年次教育に関する新規科目として令和4年度前期に開講した。オンデマンド授業であり、授業運営やコンテンツの作成等に当たっては、全学部のコンテンツ作成委員や教務委員長をはじめとした教職員の協力を得て行った。

本教育プログラムでは、今後、日常生活や仕事等の場で使いこなすことが要求される数理・データサイエンス・AIについて、その基礎的素養を学ぶことを目的とした。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を扱う際に、これらを説明し、適切に活用できるように授業設計を行った。なお、アンケート回答者数は784名、回答率は83.9% (784/934)であった。

全学部を通じて、平均値3点台(4件法)が多く、評価はおおむね好評であった。「学生の反応をみながら進められていた」「学生の意見の交換の機会が確保されていた」の項目については、令和4年度は平均値1~2点台であったが、令和5年度から授業回ごとのアンケート(小テストの難易度、授業動画のわかりやすさ)を実施し、学生からの意見や質問等を収集した。その結果、「学生の反応をみながら進められていた」「学生の意見の交換の機会が確保されていた」の項目については、全学部において平均値2点台に改善された。学生からの意見、質問等からも今後の課題が見受けられるため、翌年度以降も更なる改善を図る。

	経済学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	医学部 先進医療 科学科	理工学部	福祉健康 科学部
必修選択の別	選択	必修	必修	必修	必修	必修
回答者数/受講者数	233/277	81/100	57/60	34/34	289/359	90/104
1 シラバスをよく読んだ	2.74	2.65	3.02	2.79	2.79	2.61
4 意欲的に取り組んだ	3.32	3.16	3.42	3.32	3.27	3.39
5 目標は明確であった	3.24	3.10	3.30	3.29	3.27	3.48
6 内容は興味あるものであった	3.02	2.96	3.04	2.97	3.04	2.92
7 内容は量的に適切であった	2.93	2.85	2.86	2.74	3.10	2.87
8 わかりやすかった	3.08	3.20	3.23	3.00	3.25	3.16
9 教員の話し方は適切であった	3.22	3.27	3.33	3.21	3.28	3.44
10 反応をみながら進められた	2.62	2.46	2.33	2.35	2.75	2.57
11 意見や質問を聞くよう配慮されていた	2.77	2.53	2.63	2.50	2.75	2.79
12 教材は適切に使用されていた	3.26	3.15	3.21	3.12	3.14	3.26
13 映像等は見やすいものだった	3.40	3.36	3.47	3.32	3.44	3.50
15 授業時間は適切であった	3.20	3.07	3.23	3.06	3.31	3.26
16 教員は熱意をもって取り組んでいた	3.29	3.17	3.26	3.18	3.27	3.44
22 設問解答、添削指導、質疑応答等が行われた	3.48	3.51	3.60	3.41	3.52	3.71
23 意見交換の機会が確保されていた	2.33	2.00	2.07	2.09	2.37	2.08
24 総合的によかった	3.16	3.16	3.19	3.00	3.23	3.18

代表的な学生の声を以下に挙げる。

- ・これからの社会で役立つものばかりだったので学べてよかった。
- ・自身のキャリア形成につながった。
- ・わからないことや、不安なところを自分が理解できるまで何度も見直しすることができる。
- ・オンデマンド形式で時間のある時に自分で取り組めたことが良かった。

なお、後学期開講の教育データサイエンス入門については、学生アンケート結果集計後に自己点検を行う予定である。

(4) 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

全5学部のうち、令和4年度は教育学部及び医学部、令和5年度は理工学部及び福祉健康科学部において、必修科目とし履修率100%であった。経済学部においても、令和6年度に必修化を予定している。令和6年度以降の入学生については、履修率100%になる予定である。

(5) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見
本年度中に産業界の意見を踏まえた点検を実施する予定である。

(6) 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

令和6年度からは、前年度の授業回ごとのアンケートの実施結果をうけて、閉講後・開講前点検をコンテンツ作成者担当者間で行い、次年度以降の授業内容・水準の向上に取り組む。

また、毎年度、授業開講前に、学生モニターによる事前チェックに基づいた、授業コンテンツ等の改善を実施し、授業の質向上を行うこととしている。学生モニターから挙げられた意見等はコンテンツ作成担当者間で共有し、小テスト及びまとめテストの内容や設問数の調整、スライドや動画の一部内容の修正等を行う。

以上